

調布市内でみられる哺乳類

調布市内でみられる哺乳類

多摩川自然情報館の開館以来、情報館周辺で確認された哺乳類は4目7科12種でした。

多くの哺乳類は夜行性です。私たちが寝静まってから活動するので、なかなかお目にかかれません。

どんな哺乳類が生息しているのか調べるためには、自動撮影カメラを使ったり、足跡や糞、爪痕、食べ物の痕跡などを探したりします。

河川の水際などの砂地では足跡が残りやすく、朝早く出かけると、タヌキなどの足跡が見つかるかもしれません。

	目名	科名	種名	東京都RL2020 (北多摩)	外来種
1	モグラ目	モグラ科	アズマモグラ		
2	コウモリ目	ヒナコウモリ科	アブラコウモリ		
3	ネズミ目	ネズミ科	アカネズミ		
4			ハツカネズミ		○
5			クマネズミ		○
6			ドブネズミ		○
7	ネコ目	アライグマ科	アライグマ		特定外来生物
8		イヌ科	タヌキ		
9			キツネ	EN	
10		イタチ科	イタチ	NT	
11			ニホンアナグマ	NT	
12		ジャコウネコ科	ハクビシン		○
合計	4 目	7 科	12 種	3 種	5 種

東京都 RL2020：[EN] 絶滅危惧ⅠB 類，[NT] 準絶滅危惧

昔話から わかること



昔話に登場する生き物として、タヌキやキツネが知られています。「調布の動物ばなし（編集・発行：調布市郷土資料館）」には、動物にまつわる民話が収められています。全200編のうち、哺乳類（ネコ・イヌを除く）に関するものが133編ありますが、そのうち狐（キツネ）が100編、狸（タヌキ）・ムジナ※が28編、イタチが5編でした。現在も身近な生き物であるタヌキとは違い、滅多にお目にかかることのないキツネですが、かつては私たちにとって、とても身近な生き物だったのかもしれません。※ムジナはアナグマのことを指します。時代や地域によっては、タヌキやハクビシンなどの別の他の生き物を指したり、それらの生き物を区別せずにまとめて呼んだりすることもあったようです。



タヌキと感染症

多摩川周辺では、時折「毛」が抜けてしまったタヌキの姿を見ることがあります。これは、疥癬症というヒゼンダニが媒介する病気で、皮膚と皮膚の接触によりダニが移動することで感染が広がります。近年、疥癬症のタヌキが増えていますが、餌が豊富な場所にタヌキが集まり、タヌキ同士の接触が増えたことが原因ではないかと言われています。疥癬症は人にもペットの犬・猫にも感染します。毛の抜けたタヌキを見かけた場合は触らないようにしましょう。

◀疥癬症により腹部の毛が抜けてしまったタヌキ
いきものフォトコンテスト2020 応募作品

都内のアライグマについて

アライグマは北アメリカ大陸に生息する中型哺乳類です。日本では動物園やペットとして飼育されていたものが逃げ出したり、放されたりして野生化しています。原産地ではピューマやコヨーテなどが天敵ですが、日本では天敵もほとんどおらず各地で増えており、農業被害や生態系被害に深刻な影響が出ているため、2005年には外来生物法により特定外来生物に指定されました。

東京では区部から奥多摩まで広く分布しており、屋根裏に侵入したり農作物を食べたり池で飼育されているコイなどを食べたり絶滅危惧種のトウキョウサンショウウオなどを食べたりなどの被害が出ています。



▲調布市内の住宅地に侵入し、飼育されていたコイを食べてしまったアライグマ
いきものフォトコンテスト2020 応募作品

ちょう あ し ばい おも ほ にゅう るい 調布市内でみられる主な哺乳類

アズマモグラ



普段は土の中で生活しており、めったに姿を現すことはありませんが、土が盛り上がった「塚（トンネルを補修した時の土捨て場）」や「坑道（浅いところを通った跡）」により、生息していることを確認できます。

アブラコウモリ



身近なコウモリで、日の出前や日没後に多摩川や野川などで飛翔する昆虫類を採るようすがみられます。建物の隙間などをねぐらとし、直径 1 ～ 2cm 程の隙間があれば侵入します。

アカネズミ



主に植物の種子や根茎などを食べますが、昆虫類を食べることもあります。河川敷に生えるオニグルミの実もアカネズミのエサになります。丸い穴が開いているオニグルミを見かけたら、近くにアカネズミがいるかもしれません。

アライグマ



手の触覚を使って餌を探します。手先が人の手のような形をしており、器用で好奇心が強く、色々な物を触り穴があれば手を突っ込んでいます。泳ぎや木登りも得意で、狭い隙間にも入れるほど身体が柔軟です。

タヌキ



人家近く緑地などでもみられる身近な哺乳類です。タヌキは決まった場所に糞をする（溜め糞）特徴があります。フンは掲示板の役割をしていて、自分の栄養状態や近くにある餌場などの情報交換をしているようです。

キツネ



林縁部などの開けた場所を好み、市内ではごく稀に移動中の個体が姿を見せることがあります。他の哺乳類と違って、足跡が一直線上に並ぶのが特徴です。

イタチ



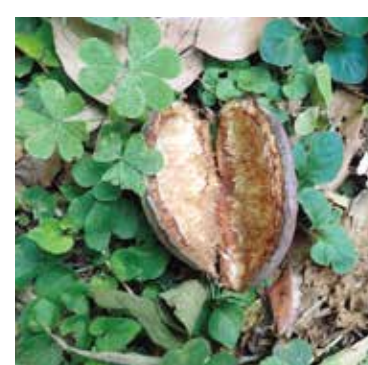
肉食寄りの雑食性で、ザリガニや魚などを食べるので水際に時折足跡を見かけます。目立つところに糞をして、なわばりをアピールします。

ニホンアナグマ



穴を掘るための丈夫な爪をもっています。秋には脂肪を蓄積して体重が 4 割程度も増えます。市街化に伴う緑地の減少により、生息に適した環境が減少しています。

ハクビシン



顔から鼻にかけて白い線があり、「白鼻心」の由来になっています。雑食ですが、柿、梨などの果物を好むため、農業被害を与えることがあります。木登りが得意で、塀の上や電線の上などを歩くことがあります。